

石巻市内で活動している社会福祉法人のご紹介

第5回インタビュー

社会福祉法人ひろぶち

平成28年4月から改正社会福祉法により、社会福祉法人による「地域における公益的な取組（社会貢献事業）」の実施が法人の責務として位置づけられました。

この取組は、次の3つの要件をすべて満たすことが必要となります。

- (1) 社会福祉事業または公益事業を行うに当たって提供される「福祉サービス」であること
- (2) 「日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者」に対する福祉サービスであること
- (3) 無料または低額な料金で提供されること

具体例としては

- ・ 夏祭り等、イベントの開催による住民間のつながりの再構築
- ・ 働き手が少ない商店街との連携による就労支援
- ・ 公共交通機関がない地域での移動支援や買い物送迎支援
- ・ 災害支援ネットワークによる避難所支援
- ・ 刑余者の自立支援に向けた自立準備ホームの登録

などが挙げられます。

石巻市内にはたくさんの社会福祉法人がありますので、実際にどんな社会貢献事業に取り組んでいるのか、順番にご紹介していきたいと思えます。

今回は「社会福祉法人ひろぶち」さんをご紹介します。

インタビューにお答えくださった方は、常務理事兼所長の佐藤賢一郎さん、副所長の佐藤由香さん、主任保育士の小野寺奈々恵さんの3名です。

社会福祉法人ひろぶち

- 法人所在地 石巻市広淵字新泉沢351番地1
- 電話番号 0225-73-2332
- ウェブサイト <https://www.hirobuchi.jp/>
- 設立年月日 平成24年3月28日
- 事業 保育所
- 施設・事業所 広淵保育所
- 社会貢献事業



(1) 地域交流

近年、核家族化が進み、祖父母と生活することが少なくなっていることから、交通安全教室（こじかクラブ）を祖父母のみなさんと一緒に行っています。園児の交通安全とともに、コロナ禍の中、短い時間の活動ですが、ふれあいを大切にしています。

その他に夏祭りや運動会では、地域の方にお越しいただき保育所のことをより理解してもらおうようにしています。しかし、コロナ禍により、人数制限もあって広く周知できませんが、収束して交流が再開できることを楽しみにしています。

また、地域の遊び場も少ないため、地域の子もたちに園庭を開放しています。

(2) 実習生の受け入れ

本園を卒園した園児が教育保育実習生として、実習に来ることも多く、昔の面影を感じながら、受け入れています。

学校の授業で保育士や乳児教育について十分に学ばれていると思います。実習で経験したことを、これからの保育を担う保育士として活躍されることを願い、実習指導を行っています。

(3) 地域の見守り体制づくり

地域の中にある保育施設として、多くの住民が「おはよう」、「こんにちは」と声をかけたり、登降園の様子を見守ったり、自然な形で園児たちとふれあい、お互いが顔見知りになることで、子どもたちは安心して地域で過ごすことができます。また、子どもたちや子育てを優しく見守る大人が増えることは、地域全体の安心感にも繋がります。

——今回は児童福祉を担う社会福祉法人として、ひろぶちさんのご紹介です。まずは、広渕保育所の歴史について教えてください。

佐藤(賢)：大正15年に広渕寺の住職が、広渕沼干拓のために入植農家の幼児の不慮の事故を憂慮して農繁期の託児所として開設しました。

法人の認可を受けたのが平成24年3月28日となっています。

だいぶ稀なケースになりますが、おばあさん、お母さん、お子さんと3代に渡って広渕保育所に入園されたご家庭もあり、それだけでも長く地域に根ざした保育所と思ってもらえるのではないのでしょうか。

ほかに珍しいこととしては、天皇陛下からの御下賜金を2回いただいております。



広渕保育所の全景

——現在、ご利用なさっている園児は何名おりますか。

佐藤(賢)：現在55名在籍しており、定員は60名となっています。通園してい

る園児の大半は広渕地区ですが、他に河南地区では前谷地や北村、ほかにも桃生地区や蛇田地区から利用されている園児もいます。

入所する園児は行政が審査し決定するため、保育所としては申請書を受付するだけで申込みされても広渕保育所に入れるわけではありません。広渕という地域に存在する法人としては、広渕に住んでいる園児に入園してもらいたいという思いはありますね。



餅つき会の様子

——法人としての地域貢献活動について教えてください。

佐藤(賢)：園の行事である花まつり会、運動会、餅つき会のほかに、「こじかクラブ」という名前で、祖父母交流を行っています。石巻警察署交通課の署員の方をお招きし、交通安全教室を行っています。内容としては、横断歩道の渡り方や模擬信号機を使った信号の見方のほか、祖父母の方に対して、チャイルドシートの必要性について啓蒙をしています。

昔は実際に近くの横断歩道を利用して

いましたが、今は国道108号の交通量が多くなってきていて危険という判断で、園庭にて行っています。

ただ、新型コロナウイルス感染症によってできない行事は多数ありました。

佐藤(由)：ほかに保育士の実習生の受け入れをしています。こちらは、石巻市経由での依頼となっています。

実は、実習生の中には本園を卒園した子どもが大きくなって、保育士を目指す方もいて、昔の面影を感じながら、学生を受け入れてしていますね。

学校の授業で保育士や乳児教育について学び、実習で経験したことを活かして、これからの保育を担う保育士として活躍されることを願っています。



祖父母交流の様子

—新型コロナウイルス感染症が広まっている中で、これからの活動実施はどのようにお考えですか。

佐藤(賢)：昨年度は人数制限もあり行事を行うことは難しかったものの、運動会は実施しました。

他の行事はコロナ禍が落ち着いてから徐々に実施を考えたいと思います。

例えば夏祭りなどして、卒園した子どもたちも含めた近隣の小学生を招いたりしたいと思っています。

—法人としての一番の強みとして何が挙げられますか。

佐藤(賢)：保育理念でもある「保護者からも信頼され、地域に愛される保育所を目指す」地域密着の保育所であることと、こちらから地域の方々へ見守りをお願いしているのではなく、自然な形で地域の皆さんが見守ってくれていることも地域に愛される保育所だと思っています。

また、卒園した子どもたちを知っていることで、小学校の登下校にも声をかけてくれている方もいます。

そのほかには、法人内では異動といったものがないため、卒園した園児が大きくなってても面影を忘れず、何歳になっても「〇〇ちゃん」などと呼んでしまうようなアットホーム感も強みかもしれません。

かといって、保育所を利用した子どもばかり気にかけているわけではなく、利用していない子どもたちにも「保育所へ遊びに来ていいよ」と伝えています。遊び場が減ってきた地域で、安心して遊べる場所を提供しています。

財団法人時代の平成20年10月6日には、全国社会福祉協議会会長さんからの表彰を受けています。

法人として全てのことは広瀬地区のためにというものが一番の前提にあります。

これからも引き続き地域に貢献できる法人、保育所でありたいと思っています。



全国社会福祉協議会会長からの表彰状

— インタビューを終えて —

保育業界では依然として保育士が不足しており、待機児童の解消のため保育施設の増設に力を入れても、働く人材の確保が出来なければ、保育の受け皿としての機能は成り立ちません。

皆様からのお話を聞いてどれだけ地域に根ざしている社会福祉法人であるか知ることができました。

例えば、近所の方であっても「おかえり」という言葉すら不審者扱いされる時代で、お願いしてるのではなく自然に地域の方が見守りをしてくれているということがどれだけ、子どもたちの安心安全な登降園、健やかなる成長につながっていることか伺い知る事が出来ました。

時代とともに子どもたちを取り巻く環境も大きく変わり、子ども・子育て支援においても、これまでの仕組みから新しい制度へと変わってきました。しかし今も

昔も変わらないものは子どもたちの純粋な眼差しです。時代・制度などいろいろなことが変わろうとも子どもたち一人ひとりの健やかな育ちを見守り暖かい愛情をもって未来を担う子どもたちの成長に広瀬保育所として万進してもらいたいと思います。



右から順に常務理事兼所長の佐藤賢一郎さん、副所長の佐藤由香さん、主任保育士の小野寺奈々恵さん